

2016 年度活動報告 CJP 授業：レギュラー 1

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、初級段階の学習者が日常場面でのコミュニケーションの実践力をつけ、自分の背景や身の回りの状況について簡単な言葉で説明できるようになることを目標とした。『まるごと 初級1A2 かつどう』『まるごと 初級1A2 りかい』（以下『まるごと』）を主教材とし、その中から交換留学生在日本で生活している間に日本語で話したり聞いたりすると想定される話題や場面を取り上げた（第1～8、11、12、14 課）。授業では、発話・聴解の練習活動を中心に、それぞれの話題・場面で必要な日本語の知識を確認・整理し、また必要に応じて応用練習を追加することによって、最終的にそれらの話題や場面で、学習者自身が言いたいことを無理なく話せ、また目的（自分の町について話す、誘う、行き方を説明する、など）が達成できるようになることを目指した。

2. 授業内容

今年度秋学期、本授業の授業時間数は全 40 コマ（1 コマ 90 分）で、『まるごと』を、1 課当たり 3 コマのペースで進めた。各コマの主な活動は、①その課で取り上げる話題について、聞いたり話したりしてみる ②その話題について話すのに必要な言語知識の確認とそれを踏まえた発話練習 ③応用練習、である。本教材には、「MARUGOTO Plus」というオンラインで学習をサポートするサイトが用意されている。そこで、本授業ではそれらを活用し、語彙や文法については事前に学習してくるよう指導し、教室ではできるだけ運用の練習や応用練習に重点を置いた。

3. 成果と今後の課題

本科目はカリキュラム改変により、今年度秋学期に新設された選択科目である。そのため、本科目の履修者の日本語力やニーズ等をまだ把握しきれていない部分がある。今回の履修者は一名であったが、事前の予想に比べ、日本語力、学習意欲ともに高かった。今回は一名のみであったため、その学習者に合わせた柔軟な対応を取ることができ、そのため、授業に対する評価も高かった。しかし、報告者はプログラムにおける本科目の位置づけを考えたとき、学習者の背景は多様なものになると予想している。今後、履修者が増え、学習者の持つ背景が多様化した場合に、その多様性にどのように対応していくのか、それぞれの学習者に合った授業運営を長期的に考えていく必要がある。